

徳島大学病院と徳島県立中央病院とを結ぶ連絡橋がこの春完成し、夏には総合メディカルゾーンが内閣府から総合特区として認定されました。総合特区では様々な規制が緩和されます。たとえば通常の2病院間では許されていない施設の共同利用や物品の共同購入が許可され、患者や医療従事者が大学と中央病院を往来することも可能となるわけです。具体的にどこまで規制が緩和されるかはまだ明らかでなく今後の交渉にかかっていますが、全国に先立つ医療特区として注目されています。総合メディカルゾーンの使命は県民に高度で安全な医療を展開することですが、人材育成の場としても期待されています。教職員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



(2012年 秋) 徳島大学病院長 安井夏生

卒後臨床研修センターの広報活動

徳島大学病院卒後臨床研修センターでは、本年も研修医の獲得に向けて様々な広報活動を行っています。6/16(土)には徳島大学病院基幹型卒後臨床研修プログラム説明会を行いました。今年も昨年と同様に二部構成とし、一部は第二臨床講堂で徳島大学病院卒後臨床研修プログラムの概要についての説明と研修医・若手医師による体験談プレゼンテーションを、二部はリハビリテーションセンターで徳島大学病院・協力病院による合同説明会をブース形式で行いました。悪天候の中ではありましたが昨年よりも出展ブースの数は大幅に増加し、さらに多くの診療科、協力病院のスタッフや研修医から直接話が聞けるとあって、マッチングを控えた徳島大学の6年生のみならず、4年生や5年生、他大学の学生の方にもご参加いただくことができました。

県外における医学部学生を対象とした大規模な合同説明会には、研修医と卒後臨床研修センターの専任スタッフで毎年、徳島大学病院をアピールするために参加しています。今年度も岡山での中国四国地区医師臨床研修病院合同説明会、大阪と東京で行われたレジナビフェアで、各診療科の阿波踊り連のうちわをブースに飾り付けPRしてきました。これらの説明会を機に病院見学に来られる県外からの学生も増加しています。

また、ホームページ(<http://www.tokudai-sotsugo.jp>)もアクセス数が毎月増加しており、研修医の様子を発信する卒後臨床研修センターのブログを始め、ホームページから閲覧できるようになっています。研修医の状況をぜひご覧ください。

これからも楽しく実りある広報活動を行っていこうと思っておりますので、今後ともどうぞ協力をよろしくお願いいたします。



プログラム説明会 第2部(リハビリテーションセンター)



“全ての研修医を活かす” 徳島大学病院

徳島大学病院 研修医奮闘記

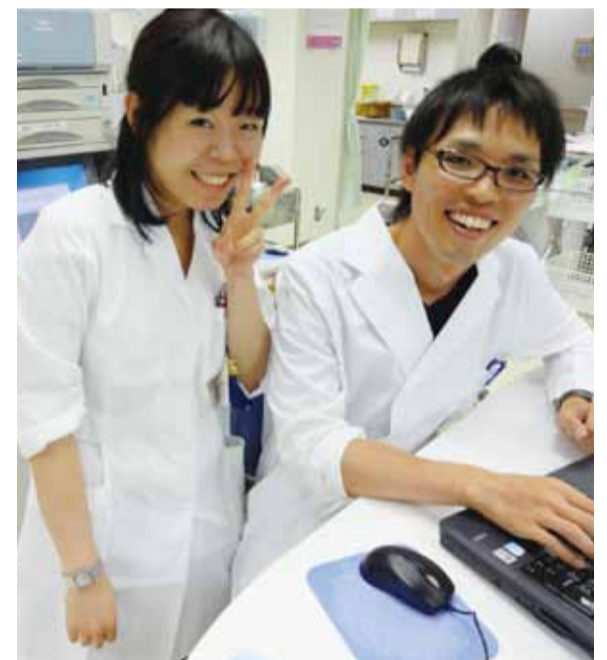
徳島大学病院 Bon Voyage プログラム
(協力病院: 徳島県立中央病院)
2年次研修医 万野 朱美

「出逢い」。私の研修医の2年間は本当にこの一言に尽きます。

教科書や問題集にとらめっこしていた受験生から一転、毎日本当にたくさんの出逢いがありました。患者さんやそのご家族、指導医の先生方に、同期、先輩後輩、そして数多くの疾患、難題…その出逢い一つひとつが私を育ててくれました。特に、私達研修医にとって、上級医の先生方との出逢いというのはこれからの人生を左右するといつてもいいぐらい大きいものがあります。

私は幼い頃のあるきっかけで医師を目指すようになりましたが、当時からよく「病気がなくて病人をみる」という言葉を耳にしていました。医学部受験の際には面接ではこの言葉を言えばいいという風潮さえある、そんな台詞です。しかし、実際の臨床現場では口に出すまでもなく、当たり前のようにそんな医療が行われていました。徹夜で患者さんの病態について一緒に考えてくださった先生、眼を潤ませながらご家族へ病状説明をしていた先生、飲み会は最後に帰っても朝一番に病棟にいる先生、患者さんのことも奥さんのことも大好きな先生…。私が出逢った先生は、どの方も医師として、また人間として尊敬できる先生ばかりでした。だからこそ、この2年間はたくさん泣きましたが、それ以上に笑顔になれることの方が多かったのだと思います。そんな出逢いから学んだことを糧にして、そして、これからもそんな出逢いを大切に、明日からまた、先生方に一歩でも近づけるように、頑張りたいと思っています。

これから研修がスタートする皆さん、私達は本当に恵まれたありがたい環境で研修させてもらっています。素晴らしい出逢いに感謝しながら、真面目に謙虚に素直に頑張っていきたいと思います。



徳島大学病院精神神経科研修中。病棟にて。(左が執筆者)

第2回 徳島GMラウンド開催

10/6(土)日垂メディカルホールにて徳島県地域医療支援センター第2回徳島GM(General Medicine)ラウンドが徳島大学病院主催で行われました。これは県内の地域医療に携わる若手医師のキャリア形成支援事業の一環として今年度より始められた企画で、8月には県立中央病院主催で第1回が開催されました。

今回は聖路加国際病院アレルギー膠原病科部長の岡田正人先生を講師にお招きし、「不明熱と関節痛を究める!」というテーマでケーススタディと講義をしていただきました。医学科の学生や地域で活躍されている先生方に加え研修医もたくさん参加し、先生のエネルギッシュなお話で大変密度の濃い時間を過ごすことができました。先生御自身のキャリア形成についてのお話を拝聴できたこともよい刺激になったのではと思います。朝から夜まで、かなりの長丁場であったにも関わらず、お一人で最後まで熱のこもったご講演をいただきました。岡田先生に大変感謝いたします。



日垂メディカルホール(西病棟11階)



聖路加国際病院 岡田正人先生